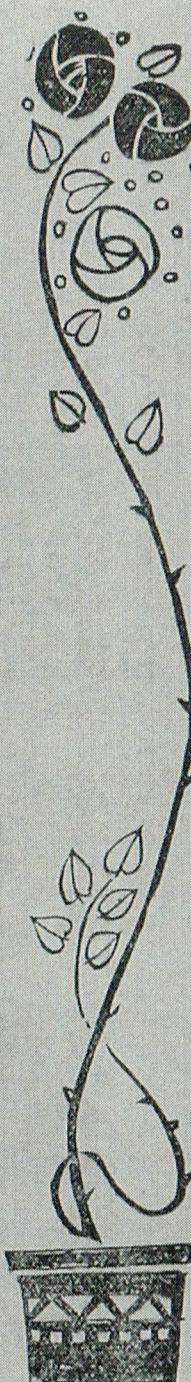


# 現代少女の新用語



く用ひられる言葉である。

▲過程 みち筋といふ事である。べて見ると、全く可哀さうな身の上で

す。こんな風に云ふのである。

▲病的 殆んど病氣と云つても差支ないと云ふ程の意味である。

「誰だつて花の嫌ひな人はないけれどあの方の好きと云つたら格別で、病的だわ。」

▲本能 うまつながらに持つて居る性質で、親がその子を可愛がり、

子がその親をなつかしむと云ふやうな斯うした自然の情愛とか、乃至は人間

が美しい着物を着たがつたり、おいしこそが

花子さんはひどく下田先生を崇拜して、この頃は全く私淑してらつしやる

やうですね。例へて云ふと、こんなものである。

▲暗示 英語で云ふヒントに同じ意味で、暗に示す。つまりそれとな

合などに多く用ひられる言葉である。

▲魅力 チャーミングと云ふ言葉に同じ意味で、人をひきつける力、

つまりある人は魅力に富んだ女だとかチヤーミングフルな人だとか、さういふ風に云ふのである。

▲輕佻浮華 物事に軽はづみで、うかくとしてゐることである。

▲自恣放縱 自まゝで、だらしないと云ふ意味。

「お父様はこの節、如何で被在いますか。」

「お父様はこの節、如何で被在いますか。」

▲反撥心 そむき、はねかへす心で、反抗的心もちを云ふのである。

「有難うござります。お陸さまに非常に頑健に暮して居ます」——と、こんな風に云ふ。

いものを食べたいと思つたり、金持になりたいと考へたりする、さうした自然の慾望を云ふのである。

▲因習 古いならばしと云ふ意味である。習慣、風習、コンベンショナルなどと同じ言葉なのである。

▲私淑 ある人に師事してまなぶ事、または或る人を内々尊敬して居て、かけながらにもその人の言行を學ぶ、そんな場合に用ひる言葉である。

「花子さんはひどく下田先生を崇拜して、この頃は全く私淑してらつしやる

やうですね。例へて云ふと、こんなものである。

▲暗示 英語で云ふヒントに同じ意味で、暗に示す。つまりそれとな

る。この年とか、少女とか云ふのである。

▲脱線的 線を脱するの意味ですつと以前は汽車とか電車とか、軌道をはつれた、それだけに用ひて居た事であらうと思はれる。だが今日では、

いろんな場合に用ひられて、一寸普通の外れの事をしても、ヤレ脱線したの、

脱線的行爲だと、さうした言葉を日常につかふやうになつた。

▲修飾 修め飾るの意味である。事物を修飾すると云ふ場合に用ひる。

「野枝子さんの方は何と云ふやさしい筆致は奥底優雅である。あの文章はつやツほい筆致だの、そんなやうに云ふ言葉なのである。」

○筆致 筆つきと云ふ意味である。あの方の筆致は奥底優雅である。あの文章はつやツほい筆致だの、そんなやうに云ふ言葉なのである。

○情趣 おもむきといふ程の意。あるが、早くから何か解つて来て、ま

せ氣味の少年少女などを形容して、ある。(永代美知代)

▲耽溺 耽はふけること、溺はおほれること、物事に熱中し過ぎた場時代に非常な色彩を添へたと云ふものねえ。」

▲耽溺 耽はふけること、溺はおほれること、物事に熱中し過ぎた場

時代に非常な色彩を添へたと云ふものねえ。」